会　議　録

会議の名称	行田市自殺対策計画策定委員会（第２回）
開催日時	令和６年１０月１８日（金） 開会：１５時００分　・　閉会：１６時３５分
開催場所	行田市役所３階　３０６会議室
出席者（委員）氏名	川島治、鈴木久美子、髙鳥和子、遠藤優子、小沢めぐみ、田口奏大、新井由美子、大西航、五十嵐次雄
欠席者（委員）氏名	鈴木勝幸、和田明
事務局	（健康福祉部長）上村浩代、（健康課長）長島浩司 （健康福祉部副参事）田中義久、（健康課主幹）大崎直子 （健康課主査）三田陽子
会議内容	１　開会 ２　あいさつ ３　議題 （１）　基本施策案、重点施策及び指標案について ①　第１回委員会の意見概要 ②　第２次自殺対策計画の構成案 ③　第２次自殺対策計画の素案 ④　参考　第１次計画及び第２次計画関連施策 （２）　基本理念案及び啓発活動キャッチフレーズ案について （３）　その他 ①　今後のスケジュールについて ４　閉会
会議資料	（資料名・概要等） ・自殺対策計画策定員会（第２回）次第 ・資料１　第１回委員会の意見概要 ・資料２　第２次自殺対策計画の構成案 ・資料３　第２次行田市自殺対策計画（案） ・資料４　第１次計画及び第２次計画関連施策 ・資料５　第２次自殺対策計画　基本理念案 ・資料６　第２次自殺対策計画策定スケジュール
その他必要事項	傍聴人　１０名

会議録の確定	確定年月日	主宰者氏名
	R7年2月28日	川島治

発　言　者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	１　開会 ２　あいさつ【川島委員長】 ３　議題【議事進行　川島委員長】
川島委員長	この会議はボイスレコーダーで録音して、会議録を作成させていただきます。 会議の公開については、個人情報は含まれないので、会議自体は公開したいと思います。そして、私が会議録を確認させていただいた上で、原則として会議録は公開させていただきます。 本日は、ご遠慮なく、忌憚のないご意見、発言をお願いします。 傍聴の方もたくさんおりますが、よろしくお願いいたします。 それでは会議の進行をさせていただきます。 議題１、施策について資料に目を通しているかと思いますので、要点のみ事務局のご説明をお願いします。
事務局	【議題（１）基本施策案、重点施策及び指標案について（資料１から資料４まで）の説明】
川島委員長	説明がありましたが、ご質問をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。
大西委員	第１回委員会で、小中学校への「生命に関する授業」の全校実施を目指しているという話がありましたが、これは小中学校以外の、例えば、教育支援センターなど、特別支援学級の適応指導教室（ウイズ）などでの開催も考えていますか。
事務局	現在のところ、この計画においては市内の小中学校での実施を考えており、今後、特別支援学級での開催も検討できればと思います。
川島委員長	やはり障害をお持ちの方とか、そのご家族とか、リスクということを考えれば、開催も検討できるのではないかと思います。「生命に関する授業」が増えれば、子どもやその家族にも波及していきます。その家庭で、生命に関してお母さんやご家族が精神的に大変になる可能性があるので、積極的に検討した方がいいと思います。
大西委員	もう１点あります。毎月配られる市報の最後のページに、こころの相談があり、そこには、精神科医師や精神医療に携わる人たちがいるので相談をしてください、と記載されていますが、それは、行政が受け身の体制であり、行政から助けに行くという体制ではないように受け取れます。私としては、行政が受け身ではなく、行政がＳＯＳを出した方の緊急性を察知して助けに行く形をとられたらと思います。

川島委員長	まず、アクセスの問題で、自殺対策パッケージにもありますが、ＳＮＳを使って２４時間オンラインで対策をする。電話だけではなく、メールやラインを利用し、３日以内に返事をするような仕組みを取り入れているところは、県レベルではなく市町村レベルでもたくさんあります。 コストがかかるものでなければ、ＱＲコードなどで連絡をとれる体制があればいいと思います。 月に１回精神科の先生の相談会があるので、相談を受けてください、とありますが相談会に来られる方は、死ぬことは少ないです。相談できないから自殺に繋がってしまうので、本人のアクセスの方法を検討していただきたいところですし重要です。 あとは、アウトリーチという意味では、今、医師会でも検討しております。身体障害や精神障害の方の地域共生に伴う取組みで、引きこもりも含めています。アウトリーチで繋がる前に若い方の自殺が起こることが多いので、垣根を低くしてストレスを出しやすくしてあげることが大事です。月１回、精神科の先生が来るお知らせでは不十分だと思いますので、ぜひアクセスの方法を考えてみてください。よろしくお願いします。
田口委員	自殺対策の支援で、計画に記載されている居場所づくりですが、高齢者の方ですとか、子育て中の２０代、３０代の方でも、そういう支援を必要としている方もいると思いますが、具体的な支援はありますか。
川島委員長	いきいきサロンや支え合いマップでの支援をしていますが、高齢者が対象です。不登校など若い人の精神疾患から自殺につながるケースもありますので、若い人にどうやって居場所を提供するかということについて、市で何かお考えがあるか教えてください。
事務局	自殺対策計画には載っていませんが、今後は本日参加している田口委員さんと市で協力し、引きこもりの支援体制を整えて行きたい考えております。それが自殺の対策につながるものと考えております。
川島委員長	行田市の場合、統計的に自殺者は高齢者が増えていますが、やはり高齢の方を失うことと、お子さん失うことでは、周囲の方のインパクトが変わると思います。人口構成上、どうしても高齢者よりの施策になると思いますが、やはり最初の入り口で、お子さんたちの悩みを少しでも拾ってあげられるような仕組みを考えてもらえたらと思います。
事務局	もう１点説明させてもらいます。資料３の２２ページ下です。（１）児童生徒や若年層への自己肯定感の向上の推進ということで、児童生徒の自己肯定感の向上を図るため、コミュニティ活動やキャリア教育、生命に関する授業などの教育等、関係機関と連携を

	図りながら推進していきます。また、子どもが自分らしく安心して過ごせるための子どもの居場所づくりも推進していくことで、若年層にも対応していこうと考えております。
川島委員長	本当に対応できると思ったら大間違いです。そのような場所に来る人は、自殺はしません。アクセスできない人を一生懸命拾い上げようとして、各委員さんが意見を出してくれています。 他の自治体の例ですと、若者のサポートサロン作りや、高齢者のプログラムでスマイルリンクや秘密基地などを作り、そのような場所に精神障害になる前にみんなが集まります。不登校の話も出ましたが、精神障害や自殺に至る前に、みんなが集まれる場所を作ることを、時間をかけて考えていく必要があります。これやってるから参加してくださいと言っても難しいと思います。 積極的に施策を行うだけでなく、若者を集めて「死」まで行かないような方法や、居場所を作るなどの施策を考えなければ、自然に居場所ができることは決してないと思います。 いきいきサロンを紹介するなど、ご高齢の方が集まれる場所を提供する努力も、ぜひ、考えていただきたいと思います。よろしくお願いします。
髙鳥委員	資料３の２５ページにあることですが、支え合いマップの更新も、社会福祉協議会を通して自治会で実施しており、民生委員・児童委員の皆様には協力いただき大変お世話になっています。高齢者で外に出てこない人や、若い子で引きこもっている人は、民生委員さんが回って情報をつかんでいます。それを私たちが共有して、行ける人が、外へ出るように声かけしています。 また、サロンになじめずに、辞めたり入ったりしてる方がいます。その方に理由を聞きくと、以前から入っている参加者と合わなとのことです。私も民生委員さんも自治会長さんもその方に、サロンでいろいろな人と会話をすれば楽しくなると思いますよとお声かけしています。だから地域の皆さんの協力が必要だと思っています。 行政の方に申し訳ないですが、待ってるだけでは救えないので、自殺する前に、気持ちがモヤモヤしてる時に、お声かけするのが大事だと思っています。やはり地域の人に声かけをして、外へ出すような働きかけをしていければと思います。
川島委員長	今のお話をまとめると２点。一つは情報の共有です。例えば、民生委員さんが知っている情報を共有し、それをどのようにつないでいくか。もう１つはアクセスです。誰が行くのか、民生委員さんだけではなく、専門職が行くというところもあります。こういう集まりがあるからと、声かけをし、誰かが勧めるという形です。アクセスと情報共有の仕組みをここで作る必要があると思います。アクセスできない人が一番悩んでるという視点で行政の方は理解していただき、対策をしているというのも仕事だと思いますが、つながらない人をつなぐ方法を、知恵を絞って考えないと困ります。よろしく

	お願いします。
遠藤委員	今の件とつながりますが、資料４、８ページのところにオレンジカフェ、認知症カフェがありますが、先ほどから出ている、いきいきサロンとオレンジカフェがつながればいいかと思います。それと、オレンジカフェは、その病院に行ってる人はつながっていますが、広く市民の方に認知されていません。オレンジカフェがあるので行きましょうと声をかけても、何それって言われてしまう気がします。 いきいきサロンは５０、６０箇所近くあり、オレンジカフェは８カ所と記載がありますが、その辺の周知がほとんどできていない感じがします。みんながとても楽しそうにやっているので、そういうところに行って話をすることで、皆さんの行き場として使えます。８カ所では皆さんが集まると少ないので、いきいきサロンのような、みんなでワイワイと集まれる場所が身近にできるような仕組みを構築していただけると皆さん話がしやすいと思います。 引きこもの関係ですが、家の方に状況を聞いても、大丈夫ですと返答があり、家族が引きこもっているという認識を持っていない方が多いです。ですから、その方が深みにハマる前に少しでも外に目を向けられるような施策や声かけができればいいと思います。民生委員として声かけに行っても、いやこれは言わないで、と口止めされることもあり、個人情報の関係で困っています。また、民生委員として、記録に残すためのものであっても断られてしまうことが多々あります。今日の会議との関連がありますが、地域のつながりがあり、みんなが生きやすい社会づくりを進めていければいいと思います。ただ、不安な部分もあります。
川島委員長	認知症の施策で、重点項目に上がっている、オレンジカフェは８カ所ですが、今後増える予定があります。ただ、高齢者福祉課の所管ということなので、健康課とは関係ないですが、できれば自殺対策として高齢者福祉課にも力を入れていただき、何かあればここにつないでくれと手を伸ばしていただきたいと思います。高齢者福祉課として何を自殺対策としてやるか、いつまでに何をするのか、しっかり連携していただきたいと思います。関連施策についても、実施を継続と記載してあるだけで、何課がどんな事業をしているのかわかりません。各課が責任を持って自殺対策をしていくこと、またそれを庁内で話し合ってもらいたい。話し合いには部長さんも入れて欲しいです。ただ、事業を羅列するだけではなくて、人命優先なので、しっかりとやってもらいたいと思います。 あと、個人情報の話が出ましたが人命優先です。医療も同じで、危ない状況の判断は難しいですが、このままでは、この人死んでしまうと思ったら、情報を出すことは許されます。それはこの解釈で十分に許されることであり、罪にあたるということはないです。個人情報よりも人命は優先されますから、自信を持って、命が危ないと思えば、アクセスしていただきたいと思います。

新井委員	社会福祉協議会では、支え合いマップ作りを推進しています。 例年５０カ所以上の自治会さんで更新していただいており、先程話があったように個人情報の関係で難しいところもありますが、自治会長さんや一般の地域の方が参加し、地域の皆さんから、いろいろとご意見をいただいております。その中に引きこもりの情報や、また地域包括からも様々な情報提供があります。 そのような中、今、社協で、重層的支援事業を進めています。情報提供があった時には、関係機関につなげていけたらと思っています。
川島委長長	今の話はネットワークのつながりですね。急に飛んでいくことはできないので、みんなでいつも話し合うこと、そういう組織作りをしっかりとしておかないと、この人危ないからと言われても、すぐに医者に連れて行くのか、みたいな話になってしまいますから、こういうネットワーク作りを主管課として考えていただければと思います。
五十嵐委員	先程、サロンの話が委員長と副委員長からでましたが、私もサロンを地区で６年ぐらいやっており、現状は、話にも出ましたが、高齢化や馴染めないなどの問題があると思います。私が始めたころは９０箇所以上あったと聞いており、今は８０箇所を切っているみたいです。それで、サロンの集まりのときに、新しく始めたところもあると聞いてます。計画にも記載されていますが、新規で４カ所増やす目標がありますが、今後もそういったところに力を入れる必要があると思います。 出てこられない方については、やはり足を使って、様子を見ることや、訪問が大事だと思います。自分で行って見て話をしてくる。そういうことが非常に大事だと思います。
川島委員長	サロンを増やす目標が本当に自殺対策につながっているかという評価、検証は難しいと思います。 パッケージに書いてありますが、何をやったかではなく、実際に参加した人、また担当した方がこういう成果を上げて、こういうことがあったとかをコメントしていただく仕組みがないと、ストラクチャー指標と言って参加人数などの記載のみや、何かをやっただけで、実際にそれが自殺対策につながっているという評価は難しいと考えています。
大西委員	資料１ですが、７番に記載してある自殺対策にあたっては、同じ立場や経験した人たちによる相談支援の場所が必要ではないかですが、同じ立場というのは、やはり自殺を考えた方、もしくは自殺未遂をした方というイメージを持ちます。しかし、そういう人たちが本当に集まってくれるのかが心配です。私は前回の第１回策定委員会の時からお話ししていますが、比較的オープンにしてる方です。他の人達は、むしろオープンにするよりも隠したがるのではないかと私は考えており、どういった形で自殺を考えた方や、自殺未遂を

	した方を集めていくのかが疑問に思います。どのような考えか伺います。
川島委員長	市の方で何かそれに対して対応をお考えでしたら教えてください。
事務局	同じ立場の人がどういう状況で自殺未遂をしてしまったのか、そういう気持ちが分かり合える場所があればいいと思います。ただ、その方だけで集まると悪い方向に進む可能性があるので、例えば、いろんな人を呼んで講演会を実施するとか、または何人か集めてグループで実施する方法などが考えられます。自殺未遂の方のみは集めづらいので、大勢を呼べばその中にいるという考えで講演会などができないか、今後検討していければと考えています。
川島委員長	現実的に本市で自殺未遂をしたことある人に来てくださいと言っても無理だと思うので、そういう現実性のないことは、行政として実施する必要がありますか。やるのであればオンラインにするとか、自殺未遂のところからアクセスしていかないとダメです。 例えば、自殺未遂があったら救急病院から市に連絡が入る形や、保健所に行き、未遂者にアクセスするなどして、同じようなことを人に話してあげるという形で話が進むわけですから、自殺未遂をしている人に手を挙げてもらって話しをする形は、アクセスできないです。 実施するのであれば、もう少し丁寧に真剣に考えてください。講演会を１回行い、みんながわかった、そういうことなんだ、ではないです。もし自殺未遂の人をピックアップするのであれば、そこからアクセスする努力をしないとダメです。いきなり話をすることは、ちょっとハードル高すぎて難しいと思います。 すごくいい話かもしれませんが、一人一人事情が違うこと、本人がアクセスしたくない人同士をマッチングさせるというのは、余程の努力をしないと難しいという感想です。
事務局	そういったことを今後検討していければと考えております。例えばですが、アルコールや薬物と同様に同じ気持ちを持った人が集まって、いろんな話をしながら解決に向かって行くというのがあるので、そのようなイメージで検討していければと考えております。
川島委員長	私は、再発防止を手掛けた方が、しっかりと係われば再発防止につながると思います。自殺未遂をした方が今後再発しないように丁寧に係わっていく中で、みんなで話してみるという形で広がって行くと思います。やるのであれば、そこから考えていかれた方が現実的に自殺対策になると思います。 鈴木委員さんが学校の先生として、実際に子どもたちがＳＯＳをどうやって出すか、何が有効なのかをお聞かせいただきたいです。例えば、死にたくなったらＳＯＳを出すということは、かなりハードルが高い気がしますので、教育の立場からそのあたりのご意見や

	ご提案があったらお願いしたいと思います。
鈴木委員	ご提案ということではなく、学校は子どもたちが長い時間いる場所であり、子どもたちの命を守ることは重要だと思っています。 学校は安心して楽しく通える魅力ある環境にすべきだと思っていますが、今は多様性という言葉が使われることもあり、色々な子どもが増えていますし、コロナ禍を経て学校を休むことが当たり前になり、行かなくてもいいという親もいます。先ほど引きこもりの話がありましたが、うちの学校は不登校も多いですし、市全体で見ても増えており、本当に何でなんだと思います。親が承知しているので、学校で強引に来させるやり方は全然通用しません。 先ほどもありましたがＳＯＳの出し方ですが、いじめについて確認すると、大丈夫と言う答えがくることを先生方に伝えています。先ほども話がありましたが大丈夫と言う聞き方ではなく、眠れてますかという形など、言い換えが必要なのかなと思いました。 学校は一番長い時間過ごしていて、中学校はどうしても教科により担当が変わります。学級担任といっても小学校ほどずっと一緒にいるわけではないですが、やはり身近にいる大人ですので変化に気づくと思います。ただ、普段からしかっり見ていないと、ちょっとした変化にも気づけないと思うので、その辺を敏感に気づく能力や、資質みたいなものを教員として身につけて行かなければならないと思いますし、アンテナを高くして、いじめなどを見つけなければならないと思っています。しかし、教員も若返っており、生徒に対するアンテナがうまく機能しない部分があります。 生命の授業や道徳の時間、また部活や学級活動の中でも、話をしているので、命が大事であることは知っているはずです。しかし、間違った方向に進むことがあるので、子どもたちに考えてもらう時間を作っています。勉強のように即効性があるわけではないところが本当に学校としても悔しいですし、力がないことを感じています。とにかくいろんなチームで、学校だけじゃなくて保護者や地域などと連携していくのも大事だと思っています。 居場所づくりの話もありましたが、今は、保健室でも悩みを訴えてくる生徒もいますので、どんな場所でも、自分の言葉で相談できることを伝えて行きたいと思っています。
川島委員長	他の自治体だと山形、神戸、高崎など、教育主事の方と保健師がペアとなり出張でストレスの出し方研修会を実施しており、埼玉県では新座市が高学年を対象にやっています。先生だけでやるのは大変だと思うので、市の保健師も一緒に、専門の方を呼んでＳＯＳの出し方を実施しています。子どもたちに勉強してもらう機会は必要ですが、先生方が悩んでる子どもたちにアクセスすることも必要であると思います。 あと１つは、不登校から引きこもりになって、それが自殺につながることがありますが、義務教育は報告義務があると思いますが、中学校を卒業したら、情報が無くなってしまうのではないかと思います。この件は教育長にお話ししましたが、引きこもりの後どうす

	るか、不登校の後どうするか、そういう方の見守りをするような仕組みづくりが必要だと思います。これは滋賀県の市で実施していますが、数が多くなければ、会議をして、その人の状況を見てるだけでも、自殺対策には有効ではないかと思います。健康課とは関係ない話かもしれませんが、そのような仕組み、ハイリスクの対応を考えていただきたいと思います。中学を出たら、その辺を引き継ぎしないといけないと思います。
鈴木委員	高校に引き継ぐことはあります。
川島委員長	不登校の子どもの情報は高校に引き継がれるのですか。
鈴木委員	そういうこともあります。
川島委員長	そうすると、市からは全く離れてしまうという話ですね。
事務局	今、地域共生社会推進課から教育委員会に相談させていただいているのは、中学校３年生時点で不登校になっているお子さん、生徒がいる場合、その情報をもらい、社協さんにお願いをしているアウトリーチ、参加支援事業につなごうという取り組みを現在、検討しております。
川島委員長	ぜひ、そこは、ハイリスクで一番アクセスしやすい部分の一つであると思いますので形にしていただきたいです。 他にどうでしょう。ご意見お願いします。
大西委員	先ほどの鈴木委員さんから学校の話を伺いましたが、今現在、学校にはスクールカウンセラーという方がおりますが、全校に１人ずつ配置されてる状況でしょうか。
川島委員長	スクールカウンセラーの配置は、中学校ではどうですか。
鈴木委員	常勤ではなく、月に２回です。
川島委員長	このスクールカウンセラーの存在は、子どもたちは知っていますか。
鈴木委員	知っていると思いますが、活用が少なです。
川島委員長	月に２回では、ちょっと難しいですね。
大西委員	できれば、スクールカウンセラーが生徒の身近に常にいてあげて、スクールカウンセラーが、生徒一人一人を見ることができ、また、生徒からもスクールカウンセラーの方のことを信用できる存在であることがいいのではないかと感じました。

事務局	スクールカウンセラーは、小中学校に１名、不定期配置です。各中学校にはさわやか相談員が２名配置されていて、毎日必ず１名が勤務されているようなので、さわやか相談員が、毎日、生徒から相談を受ける体制があります。
川島委員長	では、そのような方にゲートキーパーの研修を受けていただくことはどうでしょうか。そのような方が、自殺対策という目で見てほしいと思います。先生方は動画を見たりしてますが、学校現場のみんなが受けていただきたいと思います。先生の知らない時間に、しっかりフォローしていただくことが必要だと思います。高齢者に偏ったものではなくて、ゲートキーパー研修も広い範囲で考えていただければと思います。
髙鳥委員	私は太田地区に住んでいますが、家で座っていてお昼近くに自転車で登校する生徒が見えます。その子は地域で見かけない生徒です。そういう子が通ると、おはようと言葉をかけて、不登校をなくす、また頑張れという思いがあり、急がないと遅刻だよと声かけしています。近所の人にも、子どもに声かけをしましょうと言ってます。そういうことが地域で大事なことかと思い、声かけをしています。
川島委員長	世話焼きのおばさんということですね。子どもたちに声をかけられるような支え合い、そういうことが大切だと思います。 子どもの話が出ましたが、高齢者の関係で地域包括では何かお考えがありますか。
小沢委員	先程、オレンジカフェの話が出ましたが、２か所のうちの１か所が、私たちの地域包括支援センターでオレンジカフェを開催しております。周知が足りないということなので、オレンジカフェの周知と、オレンジカフェに地域の方が来ていただけるようにしたいと思っております。
川島委員長	オレンジカフェに関わらず、やはり高齢者が多いので、例えば、地域包括支援センターとか、相談業務につく方がゲートキーパーとなって、つないでいただくことが大事だと思います。ですから、市でも、悩みの種類ごとに相談の連絡先が決まっているような、つなぎ先の整備をお願いできればと思います。 私の方から、先ほど話しましたが、この資料４を見ても、市では様々な事業をやっており、それも自殺対策に繋がっていると言えばそのとおりですが、市の各部署で何を中心に自殺対策をしているのか、また、力を入れているのか、ぜひ、健康課から確認していただきたいです。そして、各部署が責任をもって自殺対策を実施することを計画に書かないとダメだと思います。そのようなことは計画に記載されていないです。重点項目の事業はありますが、継続をするだけではやらないことと変わらないです。５年間のうちにやっていただきたいことを健康課から確認して、実のある計画を立てていた

	だきたいです。国の指針もそのように記載されてますから、事業を羅列するだけではなくて、対応をお願いしたいと思います。 成果指標においては、先程も話しましたが、マップの更新や、参加者を増やすなどは、数値の増加が、どれだけ自殺対策につながるかが見えにくいので、見える形の指標でPDCAにしないといけないと思います。成果指標の数字の出し方で、どうしても、何かを実施したことや、何かを作ることになってしまうので、自殺対策として評価しやすいものを、知恵を絞って考えていただかないと、PDCAにならないと思います。 先程も話しましたが、睡眠についてやゲートキーパーに関しても人数や職種の指標など丁寧に成果が分かるようなものにしていただきたいです。それと評価に関しては、５年後の１回だと、何もしないことと一緒だと思います。
事務局	行田市においては、年間１０人程度で増減を繰り返しており、自殺対策の成果が見えにくいという状況があります。第２次計画の最終年度に評価の検証を行い、第３次計画に反映できればと考えております。
川島委員長	第１次計画の評価検証がこの策定の前にありましたか。対策について、これを実施して行こうと５年前に考えたことが、第２次計画に活かされていますか。 ５年前に計画したことに対し、施策に力を入れるものや、再度、実施する施策など、そのような検証をしなければPDCAにつながらないし無駄だと思います。第１計画の検証はどうなっていますか。
事務局	第１次計画の検証は行っておりませんが、資料４の各課の生きるための施策につきましては、毎年確認しております。
川島委員長	計画を策定して無駄にならないように、みんなが知恵を絞って策定しているので、同じことの繰り返しにならないように、評価検証は５年ではなく、次に生かせるように４年で検証してもいいと思います。同じことの繰り返しは、ダメだと思いますが、部長は何か考えがありますか。
事務局	自殺対策大綱が５年毎の改定になっています。毎年の自殺者数とそのプロファイリングが毎年提供されていますが、それを使ってデータを見ることができます。前回の反省として、第１次計画では重点施策に高齢者、生活困窮者、勤務・経営問題と掲げて各施策を推進してきましたが、毎年何を実施したかの状況把握はしておりました。ただそれが自殺者数にどう影響していたかという評価は中々難しいという反省点があります。今回もプロファイリングにおいて、高齢者、生活困窮者、無職者・失業者というのを重点にすべきではないかという方向性がありましたが、これも効果検証が難しいと思い、自殺対策に必要な事について、皆さんにご意見を伺い、地域のつながりづくりや人材育成が必要ではないか、また若者・子どもに

	なぜ死んだらいけないのかということを理解していただきたいとのご意見をいただき、その３点を重点にした上で、何が本当に自殺の抑制になるのかは、数字による検証が難しいので、地域のつながりづくりでの取り組みの検証、子ども若者に命の大切さをわかってもらえる取り組みの検証、人材育成の取組みの検証ということを、今回の成果指標にさせていただきました。 ３年後、４年後、５年後のどの段階での検証でも構わないですが、それが自殺の抑制になったのかは正直わからないと思っています。このことから、自殺率は国、県の参考指標としています。 事務局としては、成果指標にした支援マップの更新、地域づくりが一番の根幹になるだろうと考えています。いきいきサロンも高齢者の方が集まる場所になっていますので増やしていきたい。民生委員さん、児童委員さんのみの記載ですが、包括の職員さんや、オレンジカフェの職員さんなども対象にゲートキーパーを増やしていきたいと思っています。また、小中学校の子どもたちに命の大切さを分かっていただく、生きていく力を、子どもたちにつけることを、地道に生命に関する授業で教えて行かなければと思っており、現在は市内の２０校中、未実施が５校になっています。外部講師の力を借りて２０校中２０校を目指したいという思いがありますので、教育委員会の了承得て、成果指標の目標にさせていただきました。これを来年検証することも可能ですが、実施状況を確認して、それをどうのように計画に反映するか、また、期間が短いと検証しづらいこともあるので、自殺対策大綱の見直される５年スパンで見直していきたいというのが事務局の案となっています。
川島委員長	前回の計画は、検証なしで、次の計画を策定することが永遠に続いてしまうということですか。
事務局	現在の予定ですと４年目で検証し、それを踏まえて次期計画に反映したいと考えています。
川島委員長	承知いたしました。様々な分野の委員さんが参加していますし、しっかり検証して次につなげていただかないとダメです。４年目での検証が適切か分からないですが、前回の検証結果をまとめて紹介できれば、会議が進みやすい思います。
事務局	資料３の３ページ目に計画の期間を記載してますが、令和７年度から第２次計画が始まります。７、８、９、１０の４年分を１１年度の最終年度に検証を１回行い、それを踏まえて第３次計画に反映したいと考えてます。
川島委員長	高齢者福祉計画では、そのように前年に検証を行い次に繋げるようにしています。その際には５年前の状況も伝えていただけると助かります。 指標に関して子どもの引きこもりに対する指標がないと思いますが、これは何か追加とか考えられますか。生命の授業をすると引き

	こもりがなくなる指標のようなものですが。
事務局	児童、子どもへの指標といたしましては、生命に関する授業の全校実施を目指していきたいと思います。
川島委員長	引きこもりの人が自殺に繋がりやすい状況を考えると、ＳＯＳを出せない人へのアクセス方法や居場所を作る、また、ＳＮＳを利用し、支え合うような仕組みを作ることが必要であると思います。それから民生委員等へのゲートキーパー研修も入ってますが、民生委員は高齢者に関わる場合が多いので、母子に関するところは少し弱いような気がします。成果指標としてもう一つご検討いただけたらいいと思います。
事務局	現在、自殺対策計画と並行してこども計画を別の審議会で策定しておりまして、そのこども計画の中では、引きこもりの方への支援を含めた子どもの居場所を小学校区１か所以上作るという目標を掲げようと考えています。 また、こども計画と自殺対策計画は連携していくことが必要とも考えており、そういう意味でこども計画に掲げる目標を自殺対策計画の目標にするという位置付けは、今後検討してみたいと思います。
川島委員長	子ども達にもしっかりとセーフティーネットがかかるように考えていただくことと、検証に関しては次に繋がるような仕組みにしていただきたいと思います。
事務局	成果指標については、子ども未来審議会において、本日の意見を踏まえて策定させていただきます。
川島委員長	ご質問はありますか。 それでは、次の議題の基本理念案及び啓発活動キャッチフレーズ案についてご説明をお願いします。
事務局	【議題（２）基本理念案及び啓発活動キャッチフレーズについて（資料５）の説明】
川島委員長	ありがとうございました。その啓発活動のキャッチフレーズ案は作らないということですか。２の③は、できているやつを踏襲するのですか。
事務局	基本理念については、前回のものをわかりやすくしました。啓発活動案については、みなさんで選んでいただきたいと思っています。
川島委員長	啓発活動キャッチフレーズ案について、皆さんの意見を伺い選んでいきたいと思います。五十嵐委員さんご意見をお願いします。

五十嵐委員	２番の心をつなぐ命をつなぐがいいと思います。
大西委員	私も２番の心をつなぐ命をつなぐ。これに言葉を付け足せればさらにいいと思います。
川島委員長	まず、大枠を決めましょう。
新井委員	私も同じく、２番の心をつなぐ命をつなぐがいいと思います。
田口委員	私も２番でお願いします。
小沢委員	２番がいいと思います。
遠藤委員	私も２番がいいかなと思います。
鈴木委員	同じく、２番がいいかと思いますが、３番の「地域の絆が生きる力を育む」のことばを変えるといいんじゃないかと思っていましたが、どちらかというと２番です。
髙鳥委員	２番です。
川島委員長	大半の委員さんが、みなさん一致の２番でした。大西委員さん何か追加でありますか。
大西委員	追加で、風通しが悪い社会だと、どうしても命を繋げないし、心もつなぐことができないと思うので、「風通しの良い社会」という言葉をどこかに入れるのはどうでしょうか。
川島委員長	基本的には、２番の「心をつなぐ命をつなぐ」でいいと思います。やはりその考え方として、お互いに支え合いや、繋がることだと思います。そのような言葉で、命をつなぐことが自殺対策ということが分かると思います。その他、大西委員の発言で、何かあるようでしたら、事務局の方で考えてください。みんなが自分ごととして考えていただけるような言葉になればと思います。そういうことで２番を中心に文言の修正は事務局でご検討ください。
大西委員	【持参資料の説明。（いのちの電話相談員不足深刻）（厚生労働省が定める「自殺対策強化月間」は３月に定められています。）（メンタルが強い人の特徴５選！心の健康状態を保つために必要なことは？）（自殺や心身へのストレスを喰いとめるための合言葉）】
川島委員長	その他、今後のスケジュールについてご説明をお願いします。
事務局	【議題（３）その他の今後のスケジュールについて説明】

川島委員長	ありがとうございました。ご質問はありますか。無ければ、以上をもちまして議事を終了いたします。議会、学校など皆さんのお立場で、いろいろ考えていただき、お力添えをいただきたいと思います。今日の議事は終了いたします。ありがとうございました。
司会	4　閉会